



第2回

# 【阿仁街道】

秋田県

# 南北から阿仁鉦山を 支えた街道



## 記録にない平賀源内の足跡

江戸時代の博物学、発明、西洋絵画など多方面にわたる才人だった平賀源内は、「山師」でもあった。鉦山開発やオランダ仕込みの精錬技術に詳しく、阿仁鉦山の技術指導を秋田藩から依頼され、秋田を訪れたのは安永2年（1773）7月のことである。

鉦山技師・吉田利兵衛を伴い、奥州街道、羽州街道をたどり、院内銀山でひと仕事したのち、阿仁に向かう途中角館に立ち寄った。そこで出会ったのが



平賀源内。讃岐国（今の香川県）生まれ。上杉木内の紙風船上げ、陶器の阿仁焼の元となった水無焼も源内指導説がある。（写真提供 平賀源内記念館）

小田野直武という若き武士で、直武に画才を見出した源内は西洋絵画の技術を伝えた。「秋田蘭画」誕生のきっかけである。  
源内は角館から北に向かい、大覚野峠を越えて阿仁鉦山に到着した。その後、米代川と藤琴川の合流点にある鉦山銀絞所（後の加護山製錬所）を回り指導を行った。しかし幕府から、最新技術である「南蛮吹」を教えるはならないと厳命されていたため、特段の技術指導は行わなかったとされている。  
この時、角館と阿仁と米内沢と鉦山とたどった道が「阿仁街道」である。とは言っても、この間に源内の足跡は残っていない。だが角館と鉦山を結ぶには、このルートしか考えられない。ほかの道ははるか遠回りになるためである。



中里のカンデッコ上げ。小型の鋏と男根を縄で結び、願いを込めて神木である桂の木に投げ掛ける行事。（仙北市西木町松木中里）



大坂屋彦兵衛の墓。阿仁の専念寺にある。阿仁鉦山の運営に関わった大坂屋手代。墓石は瀬戸内産の御影石で、北前船、阿仁川舟運で運ばれて来た。（北秋田市阿仁水無）



角館の武家屋敷。阿仁街道、南側の起点はこの近く。（仙北市角館）



長岐邸。江戸時代初期から代々肝煎を務めた長岐家の屋敷。文政13年（1830）に建てられたもので、佐竹氏の本陣にもなった。（北秋田市七日市）



浦田八幡神社境内にある道標。「右くさかり道 左鉦山街道」と彫られている。上部にある手の形は字が読めない人のため彫られた。寛政12年のもの。（北秋田市浦田）

## 銀山への道

最盛期の阿仁鉦山には1万人以上の人が住んでいた。そのための米をはじめとした食料や生活物資、製錬を行うための薪炭、鉦山資材などの輸送に街道と阿仁川舟運はフル稼働した。

米は年間6千石（約9000トン）以上必要とされ、大量の仙北米が大覚野峠を越えて運ばれた。鉦山から銅を取り出した粗銅は川舟で鉦山まで下され、さらに製錬されて北前船で大阪屋などの精練所に輸送、長崎御用銅として中国との交易や銅銭の材料として使われた。

## 二本あった街道

角館から松木内を通り、阿仁に向かう道は「大覚野道」とも呼ばれた。米代川方面から阿仁に向かい南下する街道は、羽州街道宿場の小繋（能代市二ツ井）と、坊沢（北秋田市）からの2ルートあった。2本の道は米内沢で合流し、阿仁に向かっていったが、本道は阿仁川舟運と並行している小繋ルートだった。

大覚野峠を挟み、南北に位置する仙北と阿仁は互いに親戚が多い。峠を挟んで行き来し、婚姻する人が多かったためであろう。家に伝わる料理にも、共通なものがたくさんある。大量の米が運ばれたライセンスロードが生んだ縁である。

街道周辺の道の駅は、道の駅・あに（北秋田市）、道の駅・たかのす（北秋田市）、道の駅・大館能代空港（北秋田市）、道の駅・ふたつ（能代市）、道の駅・かみこあに（上小阿仁村）、道の駅・ひない（大館市）の6カ所ある。



## 街道コラム

- 北秋田市ではB級グルメとして馬肉の煮込み料理「なんこ鍋」が人気。のぼり旗には「平賀源内ロマン街道」と染め抜かれていた。
- 阿仁街道と同じく角館から鷹巣まで走る「100キロチャレンジマラソン」。今年で22回目となる。9月23日開催。



▲100キロチャレンジマラソン  
▼なんこ鍋ののぼり